「学長文学歴史サロン'24(3)」

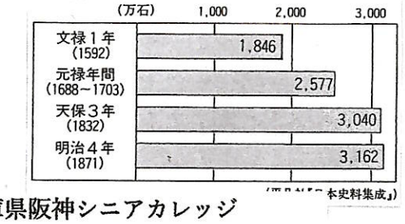
元 禄 文 化 と 阪 神 地 域

兵庫県阪神シニアカレッジ

2024.09.01

学長　田辺眞人

石高の増加



はじめに

1．幕府創業・確立 ← 「 武断政治 」　家康＝権力掌握　秀忠＝法令整備　家光＝制度確立

2．幕府転換 → 「 文治政治 」へ

4代 家綱 （1641～1651-1680） 1651 慶安事件

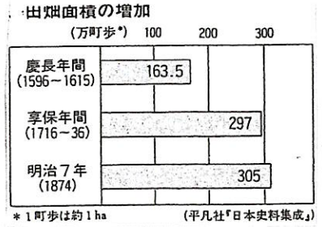
3．「 元禄時代 」思臣蔵の時代

（1）経済 バブル期 ← 約 100年の泰平

年貢増収を図る ── 新田開発奨励

大名の消費生活 ── 商品作物許可

出畑面積の増加

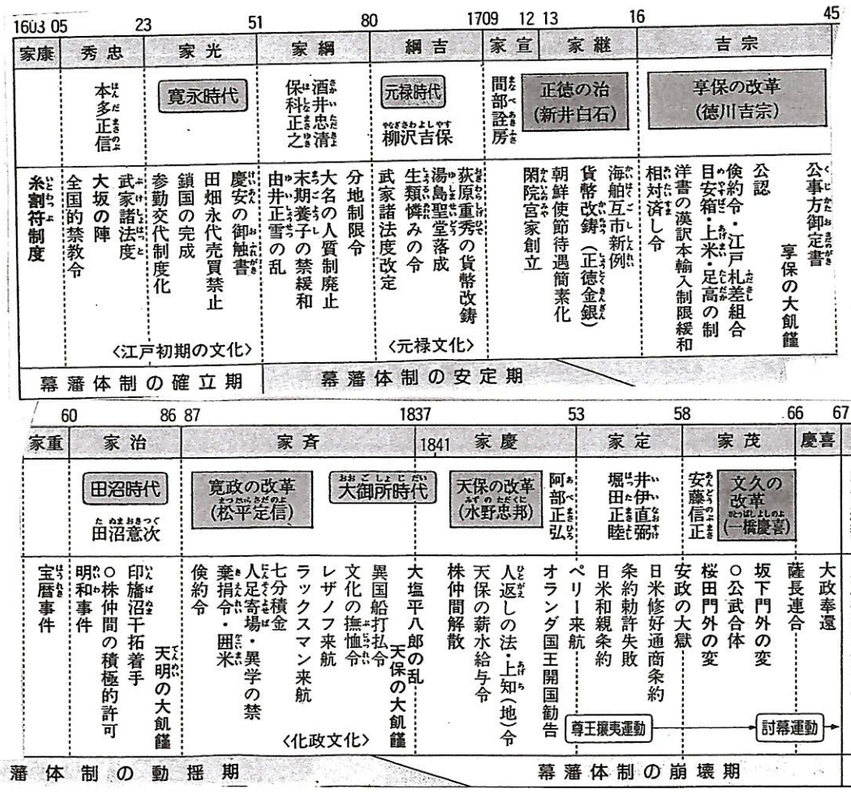


（2）政治 5代 綱吉 （1646～1680-1709）

学問奨励・・学門所を昌平坂 に。 林 信篤を大学頭に 湯島聖堂

北村季吟を歌学方、安井算哲を天文方に。

（3）学芸「元禄文化 」



元禄文化

特色	時期	17世紀後半～18世紀前半（元禄時代）
	地域	上方中心（京・大坂）
	担い手	武士・豪商が中心。庶民も文化の恩恵をうける。
	背景	1．鎖国により外国文化の影響がうすれる。 2．日本文化の成熟 3．印刷技術の発達→書物の普及
	特徴	現実謳歌の風潮 合理的精神―朱子学・自然科学・古典研究の発達 人間性の追求―松尾芭蕉・井原西鶴・近松門左衛門らの作品 表現の華麗さ―桃山風の継承，尾形光琳・乾山ら
文芸	古典	契沖「万葉代匠記」 北村季吟「源氏物語湖月抄」
	俳諧	松永貞徳「御傘」（古風，俳諧の規則を定める）―貞門派 西山宗因「西翁十百韻」（新風，自由・軽快）―談林派 松尾芭蕉「俳諧七部集」（冬の日・春の日など）―正風
	俳文	松尾芭蕉「野ざらし紀行」「笈の小文」「奥の細道」
	小説	仮名草子 浅井了意「東海道名所記」 浮世草子 井原西鶴「好色一代男」（好色物） 「武家義理物語」（武家物） 「日本永代蔵」（町人物）
	脚本	歌舞伎・浄瑠璃物語 近松門左衛門「曽根崎心中」（世話物）「国性(姓)爺合戦」（時代物）
美術工芸	建築	善光寺本堂
	庭園	後楽園（岡山）
	絵画	紅白梅図屏風・燕子花図屏風（尾形光琳） 見返り美人図・歌舞伎図屏風（菱川師宣） 洛中洛外図巻（住吉具慶）
	工芸 陶器	色絵藤花文茶壺（野々村仁清）
	漆器	八橋蒔絵螺鈿硯箱（尾形光琳）
	染色	友禅染（宮崎友禅）
芸能	歌舞伎	和事（恋愛劇） 坂田藤十郎，芳沢あやめ 荒事（武勇劇） 市川団十郎
	浄瑠璃	語り手 竹本義大夫

元禄の三大文学者と作品

西鶴は談林派の俳諧から浮世草子とよばれる小説の世界に入った。町人の喜びや悲しみを描き，その中で人間の本能や欲望を肯定した。

● 好色物

『好色一代男』，『好色一代女』，『好色五人女』

● 武家物

『武道伝来記』，『武家義理物語』

● 町人物

『日本永代蔵』…工夫・勤勉・倹約で富を成した話を集め，三井九郎右衛門が呉服物の切売り，現金売の商法でもうけた話は有名。

『世間胸算用』…大晦日における町人の悲喜劇。

俳諧は松永貞徳の貞門派のあと西山宗因が談林派をはじめ滑稽さをねらう俳諧を流行させたが，文学的価値はとぼしかった。談林派から出た芭蕉はさび・しおり・細みを中心とする正風（蕉風）を確立し，自然の中に人生を探求した。

『笈の小文』…関西俳文紀行。

『奥の細道』…1689(元禄２)年３月，門人の河合曾良を伴い，東北・北陸を巡遊して美濃大垣に至るまでの５か月間の俳文紀行。

『猿蓑』…俳諧集で，門人の向井去来らの撰。1691(元禄４)年刊。芭蕉の真髄をあらわす。

『野ざらし紀行』…甲子吟行ともいう俳文紀行。

近松は人形浄瑠璃・歌舞伎にすぐれた脚本をあらわした。親子・夫婦の愛(人情)と社会の規制(義理)との板ばさみとなって身動きのとれない姿を描いた。

● 時代物

『国性(姓)爺合戦』…1715(正徳５)年竹本座で初演し，好評で17か月間興行。明国回復に努めた鄭成功の史実をもとに脚色。

● 世話物

『曽根崎心中』…徳兵衛と遊女お初の心中物語。

『心中天網島』…治兵衛と遊女小春の心中物語。

『冥途の飛脚』…忠兵衛と遊女梅川の駆落失敗。

田辺眞人の放課後チャット（30）

アップダウンクイズでハワイに

昭和四九年、初夏に毎日放送から、アップダウンクイズへの応募を受付けたので、予選に姫路まで来るようにと連絡が入った。当日の参加者は百八十名で、三十秒間隔で読みあげられる質問三十問に筆記で答えるのである。終了後、意外に速く採点されて、私を含む六人が合格になった。

十二月初めに千里の放送局に全国から六名の挑戦者が進められ、それぞれがゴンドラに乗り、小池 清・佐々木美絵の司会で

「さあ、十問正解して、夢のハワイに行きましょう。ロート製薬がお送りするアップダウンクイズです」と収録が始まった。

答えが解っても動きが鈍い私は、スイッチの早押しに勝てず、他人の答えないような問題ばかりに答えていた。放送日の十二月二二日誕生の作曲家は？プッチーニとか、来日したフォードは米国何代目の大統領か？三八代などと答えている内に、時間が半分ほど過ぎたころ、大阪からの大東さんという人が早々と十問正解して、ハワイ行きを獲得した。

その後、英国の最高勲章は？ ガーター勲章などと答えていた私は、番組終了まで数分というところで、九問まで正解していた。そして、弁慶が比叡山に引きずり上げたのは、どこの釣鐘か？という質問に、答えは園城寺だけれど、通称の三井寺の方がいいかナと迷った。スタジオの時計が後一分弱なのに気づいて、意外に冷静な自分に驚き、えーい「三井寺」と答えて、最後の質問でハワイ行きが決った。

放送当日は番組終了後、家の電話が二時間余り鳴り続けて、テレビの番組の影響の大きさに驚いたものである。

こうして、昭和五十年三月二四日から一週間、初めての海外旅行に旅立った。当時一ドルは三百円で、ハワイのパック旅行は私の月給のニヵ月分だったから、本当に夢のハワイ旅行だった。旅費の他、旅券や予防注射の費用も全額支給されたうえに、副賞として月給の一・五ヶ月分にあたる十万円もいただけた。

出発の日、羽田に向かう新大阪駅まで、中野佐代子隊長はじめ親衛隊を名のる根木治子・渡部永子さんたち教え子が見送りに来てくれた。

初めての飛行機に興奮し、オアフ・マウイ・ハワイ・カウアイの島々を巡る豪華な旅行を満喫した。この時、ハワイの夜の浜辺で、しみじみと外国に来たんだと痛感し、しかし、一生にもう一度外国に行けるかナと真剣に考えたことを昨日のことのように覚えている。旅行中、参加者は添乗員さんから、洋式トイレやバスの使い方を指導してもらうような時代であった。

1年間の正解者17名と関係者が羽田空港に集まった（県立兵庫津ミュージアム名誉館長）

プレスリーがブルーハワイを撮影したココパームズホテル近くで

「田辺眞人の放課後チャット」は神戸の月刊タウン紙『D ジャーナル』に連載 中。同紙は、三宮ハローステーション神戸や神戸駅地下デュオ神戸案内所で無料配布。また、フェイスブックで無料閲覧

元禄の人々から

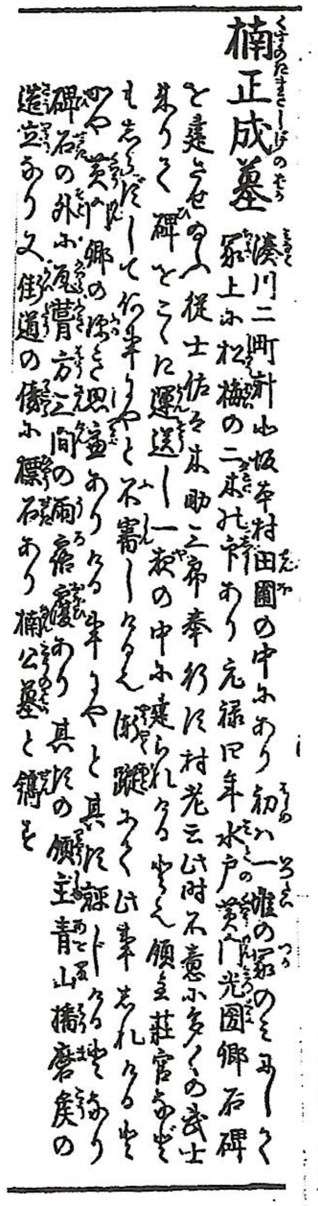
徳川綱吉	（1646～1680-1709）		
浅野長矩	（	～	1701）
大石良雄	（	～	1703）
吉良義央	（	～	1702）
徳川光圀	（	～	）
＿＿＿＿＿	（1642	～	1693）
＿＿＿＿＿	（1644	～	1694）
＿＿＿＿＿	（1653	～	1724）
＿＿＿＿＿	（1691	～	1756）

肯定

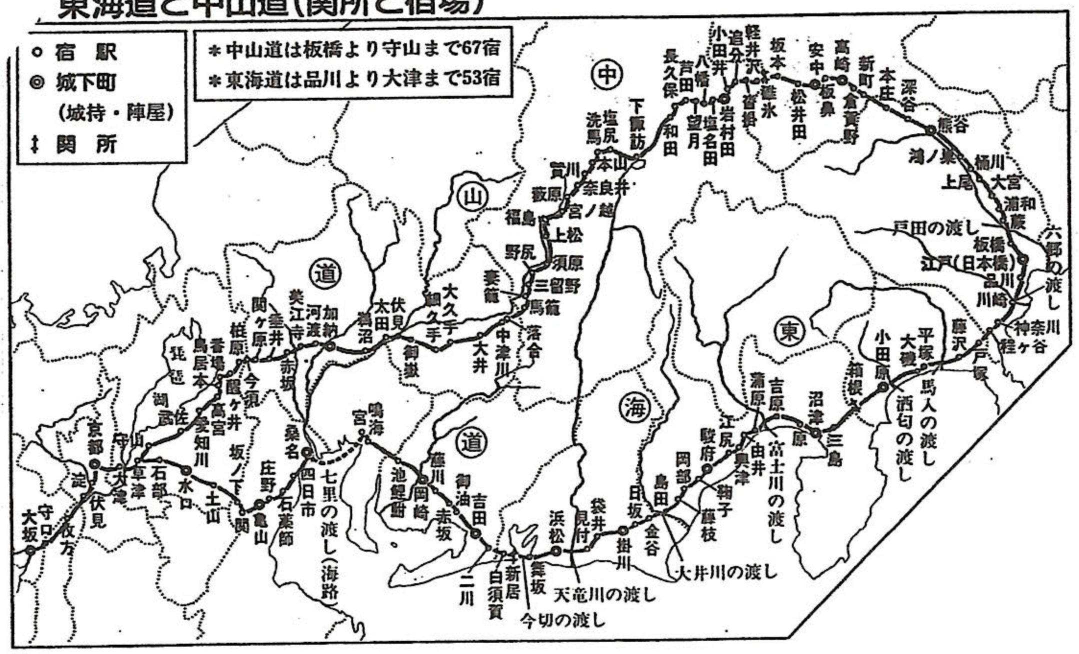
論者	生没年	著　作	著作年代
林　信篤	1644～1732	復讐論	元禄16(1703)年
室　鳩巣	1658～1734	赤穂義人録	元禄16(1703)年
浅見絅斎	1652～1711	赤穂四十六士論	宝永3(1706)年以後
三宅観瀾	1674～1718	烈士報讐録	正徳3(1713)年以後
三宅尚斎	1662～1741	重固問目、佐藤直方朱批	享保3(1718)年
		三宅先生問目、稲葉迂斎朱批	享保3(1718)年ころ
(一武人)		(一武人四十六士論)	
松宮観山	1686～1780	読四十六士論	1730年代
五井蘭洲	1697～1762	駁太宰純四十六士論	1730年代
赤松滄洲	1721～1801	太宰徳夫赤穂四十六士論評	

否定

論者	生没年	著　作	著作年代
佐藤直方	1650～1719	四十六人之筆記	宝永2(1705)年以前
荻生徂徠	1666～1728	論四十七士事	宝永2(1705)年ころ
太宰春台	1680～1747	赤穂四十六士論	享保17(1732)年ころ



東海道と中山道（関所と宿場）



メ　モ